

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 256 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2018.11.21

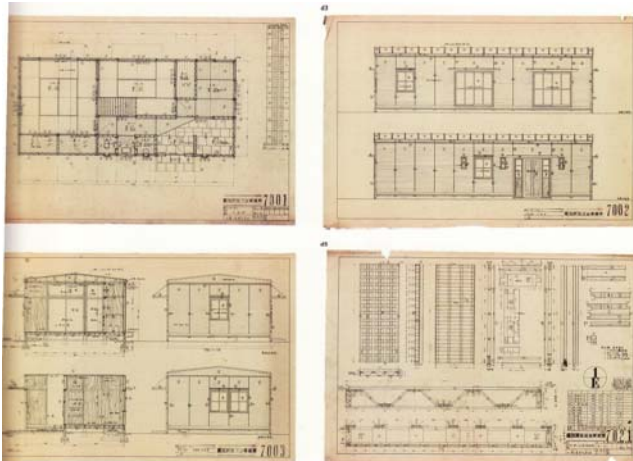
藤森著『日本の近代建築(上、下)』を分析 第22回
—前川國男のこと、丹下健三とのコンペ争いなど—

話：三沢浩

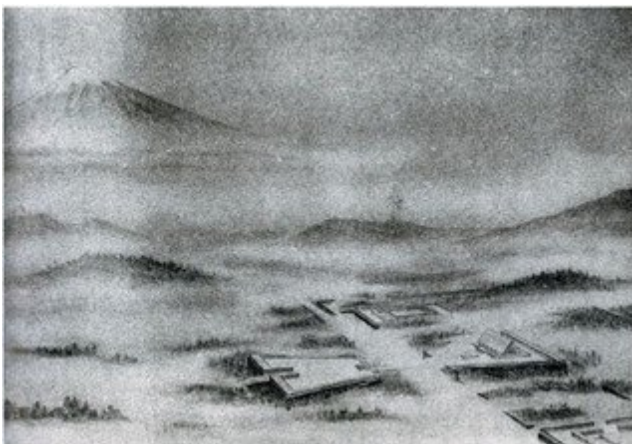
■ 寺子屋 256 は 4 人の参加でした。

■ レーモンドを先軸におきながら、戦中戦後の近代建築を先導した、前川國男と丹下健三が躍動し始めます。二人の大きく異なる個性、独自性は、戦前ではコンペ(設計競技)を舞台に現れていきます。ともにコルビュジェが先導したモダニズムに導かれながらも、戦中期のコンペで「日本的なるもの」を探ろうとします。しかし、戦後の軌跡は異なってくるように思われます。日本の近代建築を考えていくには、戦争そのものよりもずっと大きな力としての「日本的なるもの」への立脚点の相違を探っていく必要があります。

■ 次回は冬 12 月の開催ということで、早めに(18 時から)スタートします。よろしくお願いします。



前川國男:プレモス 前川邸



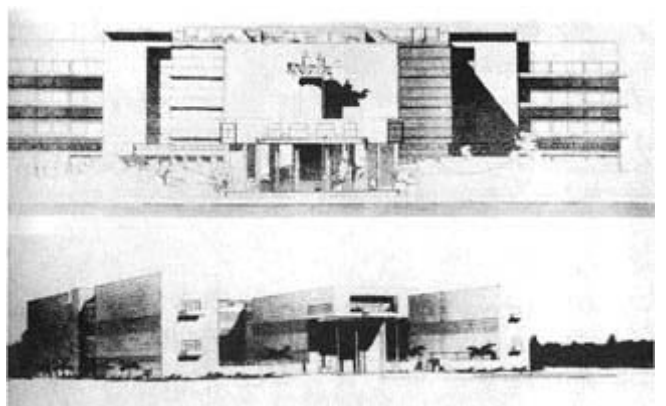
丹下健三:大東亜建設記念造営計画設計競技

新建・寺子屋(モダニズムの研究)256

2018年11月21日(水) 話:三沢浩

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
藤森著『日本の近代建築(上、下)』を分析 第22回
—前川國男のこと、丹下健三とのコンペ争いなど—

1. 前回のXVIスライドへの補足(藤森著にはないこと)
 - 1) A. レーモンドの戦後、特にRC造方法論の確立
 - 2) 1973年に日本を去る頃の南山や新計画
 - 3) 戦前の木造モダニズムとは違うRC造への変化だった
2. 今回のXVIIスライドのポイント(藤森著下巻の終り部分)
 - 1) 著書は戦前で終る(レーモンド、前川、丹下のこと)
 - 2) 戦争と建築では村野藤吾のナチス表現(宇部、そごう)
 - 3) コンペのこと、創宇社や今泉善一、函師嘉彦のこと
3. 今回は特に前川の戦前から戦後の作品
 - 1) 前川はレーモンドに何を学び、何を持って出たか
 - 2) 前川の戦前のコンペ活動と丹下との争い
 - 3) いかにして丹下は師の前川をだし抜いたか
4. そして戦後の前川は何を目指していたか
 - 1) 戦時中の苦労は「プレモス」に移行する
 - 2) 戦後の「前川邸」は10年間、事務所として使われた
 - 3) 上野の「東京文化会館」以後のことは省く。弘前も。
5. 関連スライド上映 予定



前川國男:東京帝室博物館公開コンペ

次回 <寺子屋 257> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読

藤森著『日本の近代建築(上、下)』を分析 第23回

話:三沢浩

2018年12月19日(第3水曜日定例)

(次回は開催時間を少し早めにします) PM 6:00~

場所:新宿区水道町 2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費:400円 問合:大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com